

専攻科における「異文化コミュニケーション」覚書

小山 直子*

A note on Intercultural Communication for the Advanced Engineering Courses

Naoko KOYAMA

要旨

平成 15 年度から専攻科が出来、それと同時に「異文化コミュニケーション」の授業が開講された。本稿では 1 年目の反省を踏まえて 2 年目も終了した現時点で、学生の反応、習得状況を分析すると同時に今後の授業のあり方ならびに方向性を探ることとする。

Abstract

The “Intercultural Communication” was inaugurated in April, 2003, at the same time that the Advance Engineering Courses were established in our Kosen. Since then, two academic years have passed, and I would now like to review and clarify in this paper how and to what extent my students have learned during this time, and what points could be revised and improved for future classes.

1. はじめに

平成 15 年度から専攻科が出来たのと同時に「異文化コミュニケーション」の授業が開講された。文部科学省による「英語の使える日本人」を受けて各教育機関は授業内容の見直し、教員の教育など対応に追われているのが現状であるが、それと並行してコミュニケーション能力の必要性も強調されるようになった。専攻科において「異文化コミュニケーション」は選択科目でありながら全員が履修することという但し書きがついた科目であり、平成 17 年度からは必修科目となることから分かるように本校においてもコミュニケーションの重要性について認知されるところとなった。

これを受けて 2 年間に亘って実施した授業内容の紹介と学生の反応、並びに問題点を明らかにし今後の展望を述べるものとする。

2. シラバス

15 週の中で如何に効率的に異文化コミュニケーションなるものを理解させ、技術者にとっての必要性を認識させるかに重点を置いてシラバスを形成した。

3. 授業の実践

3-1. オリエンテーション

授業の目玉として用意したのはシカゴのイリノイ大学の日本語科学生との E メール交換である。こちらが英語、相手が日本語。双方英語ではハンディがあり過ぎると考えたからである。目的はお互いに第 2 言語でコミュニケーションを取る難しさ、面白さを実感させること、外国人が日本語を短期間（相手は日本語学習 2 年目の学生）でどの程度マスターしているか、同世代の外国人が何を考え何に興味を持っているかなどを知ることであった。

* 教授 文系総合学科

授 業 の 内 容		
授 業 項 目	時間	学 習 目 標
1. オリエンテーション 1-1. コミュニケーション能力とは？ 1-2. How are you? の意味 1-3. イリノイ大学とのメール交換	6	コミュニケーションの本来の在り方を理解し、コミュニケーション能力とは何かを理解できること。 アメリカ人で日本語を学んでいる学生とメール交換することによって人間の多様性と同一性を理解すること。
2. 文化の違い 2-1. ボディランゲージ 2-2. アメリカンジョーク 2-3. アメリカの文化 2-4. ヨーロッパの文化	8	世界中には、さまざまな文化がありさまざまな表現法があることを理解出来るようになること。
3. 言語と文化 3-1. 日本人とは？ 3-2. 国際人とは？	6	他人を知るためには自分を知らなくてはならないこと、外国すなわち世界を知るためには自分の国を知らなくてはならないこと、を踏まえて初めて、良いコミュニケーションが出来ることを実感できること。
4. 自己表現 4-1. 10年後の自分 4-2. ディベート 4-3. 感動を伝える 4-5. プレゼンテーション	8	自己主張しなくては世の中渡っていけないことを認識し、そのための効果的な表現法を考え実践できるようになること。
5. 教養とは？ 5-1. 異文化コミュニケーションとは？	2	そもそも異文化とは何であるか、コミュニケーションとは何であるかの自己の見解が示せるようになること。

3-2. 文化の違い

「Non-verbal communication」の英文記事を配布し、7つのパートに分かれていたので、3人または4人のグループに分けて宿題として次の授業で発表し、全部出揃った所で、改めて非言語コミュニケーションとは？とディスカッションした。日本人に通じるコミュニケーションの仕方が、あるいは、日本人には良しとされることが国によって異なる意味合いを持つことがあることを喚起させた。

異文化に対する理解の為に教師の実体験に基づいたアメリカ文化、ヨーロッパ文化の紹介などは非常に興味を持ったようである。例えばチップの話ではそういう習慣があることすら知らない学生もいて、驚きを持って受け止められたし、リスクマネジメント、即ち、スリ、置き引きの実態、対策などもこちらの予想を超えて彼らの知らない分野であった。

3-3. 言語と文化

「日本人とは？」「国際人とは？」に関しては、

やはりグループに分けて、ディスカッションさせ、ステレオタイプについても話し合いをした。

「日本人とは？」では、日本人のいい所悪い所を列挙させ、何故なのかまで考えるように指示した。「国際人とは？」では、まずどのグループも「英語が話せる」を挙げた。しかしながら、その後で本当にそうだろうかと問いかけ、それ以前に心の問題があるのではないかと問題提起した。

「国際人とは？」と直接関係があるわけではないが、夏休み前に、課外授業としてフランス料理のテーブルマナーを希望者を対象に行った。苦小牧で唯一のフランス料理の店で、ナイフ、フォークの使い方、ワインの飲み方、パンの食べ方、食べる時の姿勢、声の大きさ、タバコのマナーなど、社会人になってからどんな所に行ってもビビらないように、恥をかかないように解説をしながら美味しい食事を楽しんだ。その際には、敢えて全員スーツを着て来させ、店に入る時から一種の緊張感を持たせるようにし、社会人となる一つの訓練となった。

3-4. 自己表現

夏休みの課題として文学作品（古典）を読み、それに絡めて「10年後の自分」というレポートを提出させた。普段文学を読まない学生が殆どなので最初は嫌だなと思ったそうであるが、読んで見たらすごくよかった、など、ほぼ全員が文学をではないこと、小説を読んで人生が少しは分かること、感受性豊かな20歳という時期に自分の人生について考えるきっかけになったはずである。

3-5. 教養とは？

甚だ曖昧かつ広い意味を持つであろう「教養」ということについても議論をしたが、十分に議論を尽くせず心残りであった。

最終試験は、ずばり「異文化コミュニケーションとは？」で半年間の授業で学んだこと、各々の考える異文化コミュニケーションとは何かを論じてもらった。異文化コミュニケーションとは、外国人とのコミュニケーションのことだけではなく、各個人が異なる家庭環境で育ち、異なる学校教育を受けて来ている訳であるから、すぐ横にいる同級生から異文化コミュニケーションが始まるということが理解された。

毎回多様なテーマで15回の授業を実施して、最後に Dear Ms. Koyama で始まり Best regards で終わる感想文を書いてもらった。中味は日本語でよいと言ったら全員日本語であったが。その中で、「毎回いろいろなことをするので面食らったが、15週終わって、全てが異文化コミュニケーションの勉強だったのだと納得した」と書かれてあったのが担当者として一番嬉しくあり、他の人の意見や考え方を知ることが出来てよかったという学生も何人かいて、普段ごく親しい友達としか話さないので良い機会を作れたと自画自賛している。

4. 授業アンケートの結果

終了時の学生の授業アンケート結果を以下に掲載する。（表の詳細は省略する。）

4-1. 1年目

(1)自由意見

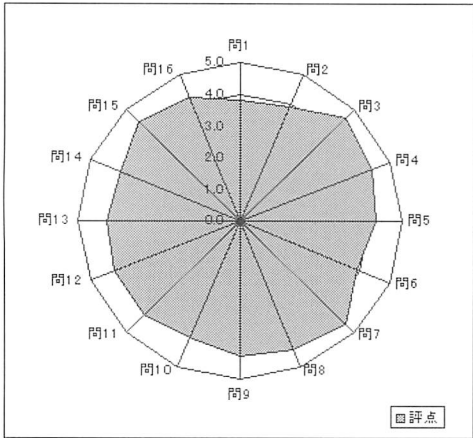
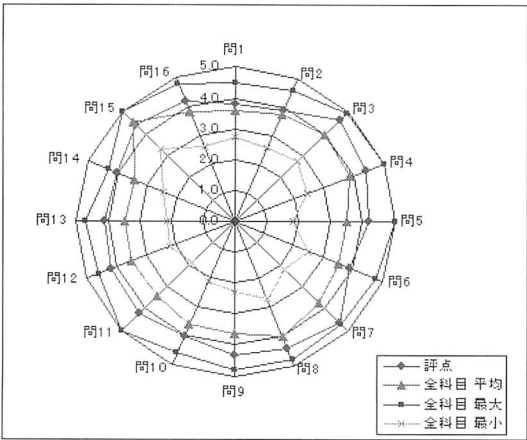
- ・ とても良い授業でした。他人の価値観を知ることでもでき、勉強になります。
- ・ 英語の授業かと思っていたら後半は英語をあまりしていなかった。

- ・ スピーチやテストの内容を事前に知らせないほうが能力向上にはいいと思います。
- ・ この授業はとても楽しくて良かったです。しかもそれだけではなく役に立つこともたくさん学べました。先生にも好感が持てました。
- ・ どのような授業を想像していたかといわれると、あまりわからないのですが、何だか物足りないような感じでした。あまり興味をそられる話ありませんでした。楽しみにしていた科目だったので少し残念でした。半年間ありがとうございました。
- ・ 異文化という初めての授業だったが、とても楽しく理解できた。
- ・ 異文化に関する知識を教えてもらった。それと同時に自国のマナーや常識も結構勉強になった。
- ・ 授業はおもしろかったけど、この教科が必要だとは思えなかった。
- ・ 座学授業というよりもディベート形式の授業だったような気がしたので楽しかった。
- ・ 俺たちはこんな授業を待っていた。

外国のことなど色々体験話が楽しかったです。自分のことを発表するのも良いと思います。

(2)担当教員コメント

学生にとって初めてで馴染みのない授業であり、戸惑いがあったようである。英語の授業ではないと最初に断ったにも関わらず「後半は英語をあまりしなかった」とか「何だか物足りないような感じ」とかのコメントが出たのは残念であると同時にもっと全体像を説明すべきであったと反省する。ただ総体的に見て、「とても良い授業」「楽しかった」「こんな授業を待っていた」というコメントや、問3の「教官の熱意」と問12の「履修目標の達成」に関して5と4で93%と83%の評価を得られたことは今後に繋がるものである。個人的に感想を書いてもらった中で「毎回色々なことをやって面食らったが15週終わってみて全てが異文化コミュニケーションに関係していたと納得した」という意見があって我が意を得たりと思った。



図：アンケート集計結果

4-1. 2年目

本年度の集計結果がまだであるので、アンケートとは別に書いてもらった手紙形式の感想を以下に示す。

- ・ 授業で先生の外国に行った時のチップの話とか、いろんな体験談が聞けておもしろかった。自分もヨーロッパに行きたくなりました。“感動したこと”などの話を1人ずつ発表したのもおもしろかった。などなど楽しく授業ができて良かったです。この講義で学んだことがこれから先役立つと思っているので感謝しています。
- ・ 小山先生の授業は毎回とても楽しく、時に真剣に考えさせられることもありました。先生がこれまで「今年はこれをやろう」という目標を常に持って来られたという話を聞き、私もそうなりたと思いました。あと、資格試験の話の時に「ハタリでも何でもいいのよ！受かってから実力をつけていけばいいじゃない！」と言っていた事がとても心に残

っています。私も頑張ろうと思いました。課外授業もとても良い経験をしたと思います。機会があればまた行きたいです！！

- ・ とても良かった。もう先生の授業が無いのはとてもさみしい…
- ・ 今回この単位をとって楽しかった。特にアメリカの大学生とメールをしたのが楽しかった。他の授業ではできないことがたくさんできて楽しかった。このような授業はこの教科でしかできなく、これからも続けてほしい。
- ・ 課外授業としてテーブルマナーがおもしろかったです。授業の感想としては、3分間スピーチとかグループ討論とか、あまり得意ではないのでちょっと大変だったけど、学会発表とかでも自分の意見を言う場面があるので役に立ちました。エアメールの件は自分なりに頑張ってたのに返事がこないのが悲しかったです。でも、色んな話が聞けて楽しかったです。
- ・ 専門分野ばかりのつめこみで疲れきった中でこの授業は面白かった。外人とメールしたり映画を見たり、色々なことをしている内にいつのまにか異文化コミュニケーションについて学べたと思う。昔の小説を読んで感想文を書いたのもある意味で昔の人との異文化コミュニケーションの様で楽しかった。あとはもっとスピーチ能力を身につけなくてはならないと実感した。
- ・ この授業を通じて異文化にふれるということによって自分の世界が広がったような気がします。先生の様々な体験談を聞くことができ、大変勉強になりました。また英語で自己紹介したり自分を主張する場があったりしたりと、みんなに聞かせることを学べたのもよかったです。
- ・ テーブルマナーは楽しかったです。もっとおすすめの映画の話を知りたいかったです。日本にもっと「紳士」が増えればいいのと思いました。授業については、あんなにも長く自分自身のことを英語で書くことはなかったと思い、良い経験になりました。
- ・ 毎回授業が楽しみでした。スピーチも、やる前は「え～っ、何でこんなことやらされるの～。やだ一つ。」って実は思っていたのですが、すっごく楽しかったです。いろんな人のことや考えが聞けたし、自分の考えを発表する機会も与えてもらったのでホント楽しか

ったです。感動を伝えて、みんなにコメントを書いてもらったのが、すごく嬉しかった。外国の人とたくさん交流をしている先生を尊敬します。私もそんな風になれたらと毎回授業で思いました。英語の勉強頑張ります。小山先生の授業をまた受けてみたいです。本当に楽しかったです。有難うございました。

- ・ 今までの授業と違って新鮮でおもしろかった。自己アピールをもっとしっかりやればよかった。意外に楽しいものだ。他人の考えを知る事もとても役に立つものだと思えました。又、受けてみたいものだ。これからは自分を持って相手に接したい。そしてお互い認め合えるコミュニケーションをとりたいものだ。
- ・ 授業という感じがしなかった。とても楽しかった。大学生とのメールの返事が気になります。自己PRが英語で話すものだったので言いたいことがうまく伝えられませんでした。グループ討論がたのしかった、みんなの個性がわかった気がする…。
- ・ スピーチをするのが嫌だった（特に感動を伝えるやつ）。先生の海外に関する話は興味があって参考になった。お金があったらフランス料理のディナーに行きたかった。
- ・ 先生の落ち度ではないが、どこぞの大学とのメール交換が途中で終わってしまったとは残念である。またせっかくなのでディスカッション等の授業をもっと増やすと面白いかもしれない。なかなか他の講義ではそういった機会がないので。最後にテストにも書きましたが、この授業、受けて本当に良かったと思います。
- ・ この授業を受ける前は異文化コミュニケーションには英語を話せることが必要だと思っていました。でも実際は、言語を話せるか否かということよりも、相手の文化を知ることが重要であることを知りました。また、自己を表現することの難しさ大切さを知りました。これからは積極的にコミュニケーションを取っていき自己表現をしていこうと思います。半年間、面白く為になる授業、ありがとうございました。
- ・ 良かったところ：自分の意見を文にする機会が多くて新鮮だった。高専に入学してからは自分の意見を表に出す必要が全くなかった。プレゼンテーションとか個人の意識の

持ち方とか社会で当然必要なことを練習することができた（今まで殆どやったことがなかったのだ）。映画もよかった。

もっとやってほしいこと：もっと皆で飲みに行きたい。旅行の話を知りたい。他にも授業を担当してほしい。テストの結果を使って1回授業してほしい。

- ・ この授業を通して一番大きかったのは本の面白さがわかったことです。普段全く本をよまないのでも夏休みの宿題の読書が嫌で仕方なかったのですが、いざ読むと面白く、今では読書を宿題でなくても行っています。マンガは昔から好きだったので、もっと早くに本の面白さに気付いていればなあと思っています。
- ・ この授業で初めて外国の人とメールした。なかなかおもしろかった。食事のマナー講座というのがあったが残念ながら参加できなかった。
- ・ 5年生の時からお世話になっているので授業も非常に受け易く楽しかったと感じています。また、いろいろ勉強になったので今後の人生に役立てたいと思います。
- ・ 良い授業でした。他の国の人々とコミュニケーションをとるということでイリノイ大学の学生とメール交換を行いました。一度で終わってしまったことは非常に残念です。コミュニケーション能力を向上するためのスピーチやテーマについて話し合いを行い発表することは本科ではあまり行うことがなかったのでもいい機会になった。異文化コミュニケーションは専攻科生だけではなく本科の学生にも必要だと思うので本科のカリキュラムに組み込んではいかがでしょうか。

5. 今後の課題

2年目の今年は双方の学生の写真をメールで送り、自分の相手の顔を見ることによってより現実感が増し、期待感が膨らんだにも関わらず、その後返事が来ないまま相手が試験と夏休みに突入してしまったのは何としてでも心残りであった。この反省を踏まえて来年度からは後期開講としイリノイ大学の9月中旬開講時点から準備、連絡をして少なくとも数回のメール交換が出来るようにしたいと考えている。そして時間が許せばこちらの学生の様子を撮影したり声を持参してイリノイ大学に出向き、

直接向こうの学生にインタビューしたり、授業風景を撮って来る計画を立てている。

更には、マルチメディアを利用して仮想生活空間を立ち上げ、両者の共同生活、仮想留学を実現し、将来的には、様々な課題をクリアした上で本物の交換留学に発展させたいと考えている。

6. 結論

結論として、メール交換は英語学習に対するモチベーション向上に役立ったこと（2年目でこんなに日本語がうまく書ける驚きと同時に自分達も頑張らなくては、8年も英語やってるのに、と思ったようである）、異文化を知り得たこと、外国に興味を持ったこと、同世代の若者としての共感を得られたことなどが挙げられる。そしてあちらの学生は年齢も国籍も様々であることも分かった。ただアメリカの大学は6月初めに学年末試験があって夏休みになってしまうので1年目は実質2回、2年目の今年は先方の先生の都合で1回しかやり取りが出来ず不満が残った。後は本人同士で続けたい人は続けるという形にしたが、もう一つ継続には到らなかったようである。

このメールを書く時に何人かの学生から、何を書いたらいいかわからないと言われた。要するに知らない人とのコミュニケーションの取り方がわからないというものであった。コミュニケーションの基本は相手に興味を持つ、即ち質問をすること、自分が興味を持っていることを書いて相手は興味があるかどうかを聞くことから始めるのであり、これはメールだけでなく対面して話をする時にも通じることであることを理解させ、結果としてコミュニケーション能力向上に貢献したものと自負するものである。

更には、学生達はグループ討論を通して他人の意見を聞くことの大切さ、プレゼンテーションの難しさ、面白さも実感した。

＜参考資料＞

学生が夏休みの課題で実際に読んだ本を以下に列挙する。

☆平成15年度（全くの自由裁量で。但し現存している人の作品は除外。）：

・復活・三国志（2）・最後のひと葉・賢者の贈り物・
ころろ・我輩は猫である・熊撃ち・オズの魔法使い・
風と共に去りぬ・坊ちゃん（2）・罪と罰・シャーロック・ホームズの冒険・ロミオとジュリエット・浮雲・晩年・老人と海・人間失格・斜陽・走れメロス（2）・車輪の下・阿部一族・ジギル博士とハイド氏・不思議の国のアリス・モモ

☆平成16年度（教師の独断と偏見で推薦図書として36冊挙げ解説した。勿論それ以外から選んだ学生もいた。）：

・誰がために鐘は鳴る・オペラ座の怪人・シェイクスピアの悲劇・車輪の下（3）・雪国・ころろ・走れメロス（2）・人間失格（3）・女の一生・氷点・赤と黒・老人と海・二十四の瞳・ロミオとジュリエット・君の天使・ハムレット・レミゼラブル・坊ちゃん・草枕・キャッチャー＝イン＝ザ＝ライ

（平成16年12月6日受理）